廣瀬川

第75号
平成22年
10月８日

仙台市小学校長会　　発行者／小野　英男（会長）　責任者／佐々木浩二（広報部長）

主張

アイデンティティー

副会長　久能　和夫（榴岡小学校）

８月25日，市校長会主催による「新任校長研修会」の場において，小野会長は「今，求められる校長の役割」として，３つの指針を示した。

①学校課題の押さえ方を明確にする。②自分中心にならず，謙虚さを忘れない。③教育に対する情熱をもち続け，これからの子供たちを背負って立つ校長としての自負をもつ。

宮城県と仙台市の校長会が分離し，パートナーシップを大切にしながらも，それぞれに独自の校長会組織運営を進めるようになって４年目を迎えた。

この間，歴代会長により標榜されてきた「仙台市小学校長会のアイデンティティー，その確立を目指すための校長としてのリーダーシップのあり方」を小野会長が示した指針を基に全会員で確認したい。

子供たちを取り巻く社会環境の変化のうねりは，子供たちの側に，様々な社会問題化する深刻な現象を生んでいる。そして，その背景には時代の趨勢による保護者・地域の複雑化された「都市型の要因」が潜んでおり，ひとたび子供にかかわる問題が起きると，その問題の拠り所を学校側のみに向けられることが多いが，これは大きな錯誤である。

時代の要請を的確に受け止め，純真な子供の夢をはぐくむことは，大人の側に存する私たちの当然の責務である。子供の育ちに対する大人側の役割・責任を共有しながら,「子供に託する大人の夢と社会の願い」は不変であり，不易であることを確かめ合う中において，改めて校長として，保護者・地域住民の願いに謙虚に耳を傾けながら，今できる最善の方法を粛々と試み，その負託に応えていかなければならない。

従来，子供一人一人を集団の中の一員としてとらえてきた教師の目には，子供の短所は他者との比較において自ずと見えたが，一人一人の長所・個の良さを見つけることはなかなか困難であった。そこで，子供のことは何でも知っているのだといった教師の驕りを捨て去りながら，人間として同じ土俵に立ち子供の姿を全面的に見て受け止める教職員集団を作り上げる必要がある。そのためには，教職員一人一人の学校運営に対する考え方を他律的なものから自律的なものへと変えていく意識変革を図ることが大切である。これまでのものを当然であり，絶対と鵜呑みにせず，必ずしも善としないで工夫・改善する余地をもつ弾力的な姿へ変えていくことである。「価値ある情報は人を熱くする」と言われている。

小事にとらわれることなく大局を考えるために，絶えず情報獲得のアンテナ感度を高めつつ,先見力・判断力を確固たるものにし，教職員・保護者の意識改革の点火役と推進役を担うのだという強い決意を有し，校長としてのリーダーシップを最大限に発揮していきたい。

おもな内容

○主　　張 …… 1
○特色ある教育活動 …… 2
○はじめまして …… 5
○編集後記 ……16

特色ある教育活動

校庭芝生化による教育活動

片平丁小学校　西　　辰三

1　はじめに

本校は，仙台市の公立小中学校では初めて校庭芝生化工事を行い，平成20年９月に完成している。

教育環境が年々変貌している中で，ヒートアイランド防止，砂塵対策，けがの防止などの面で学校の校庭を全面芝生化することによる効果は，全国的にも大きな話題のひとつとなっている。

本校においても，単に砂塵の飛散防止や安全面での改善ということにとどまらず，緑や自然への愛護心の育成，情感の安定など，豊かな人間性をはぐくむ面からも，緑の中で過ごす意義を深める取組を進めているところである。

2　完成１年後のアンケート調査から

平成21年10月，完成後１年を経た時点で，芝生の校庭についての意識調査を全児童や保護者，教職員を対象に実施している。

児童の調査においては，学年の発達段階に応じてその回答に差は見られるものの，総じて多くの児童が「芝生の校庭が好き」または「どちらかというと芝生の校庭の方が好き」と答えており，校庭の芝生は高く評価される結果となっている。その理由として児童たちがあげたものは，「転んでも痛くない」「とんぼや虫が多い」「見た感じがきれい」などであり，半数の児童たちが外で遊ぶことが増えたと答えている。

擦り傷等の保健室利用についても完成後は格段に減っており，確かに安全面での効果には大きなものがあると言える。しかし，それ以上に意義のあることとしてとらえたいのは，「朝，教室の窓を開けたときのすがすがしい空気が好き」という感想が児童たちの中から寄せられていることである。豊かな情操をはぐくみ，心の教育に貢献できる効果を中心に据えた教育活動が求められている。

3　自然愛護と勤労生産的活動

総合的な学習の時間では広瀬川の生き物調べや水質調査など自然環境について学習しているが，目の前の校庭の芝生そのものが自然の代表者である。日々変化し，成長したり，それが止まったり，消耗したりし続けている。10台の手動式芝刈り機を導入し，高学年による芝刈り作業を行ったり，低・中学年による除草作業を行ったりする中で，環境に関心をもたせる入口や生きた教材としての活用を図っている。また，それを地域の清掃活動「クリーンアップ片平」や，地域の中に創設された「まちなか農園」に学校として取り組む活動に結びつけている。

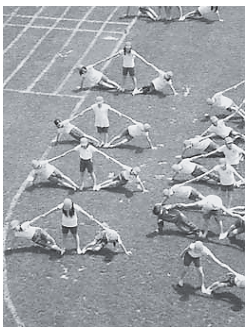
児童による芝刈り

4　地域との交流活動

芝生の維持管理については，品種についての理解から始まり施肥から補修までの様々なノウハウがあり，専門の業者への委託が中心となっているが，年３回程度の「親子芝生講習会」を実施し，芝刈り機の扱い方や芝生使用上のマナーについて，親子で体験する機会を設けている。また，運動会後の校庭の地域開放，地区夏祭りでの芝生の活用等，地域住民との出会い・ふれあいや集団作業をとおして，地域・児童・学校の関係作りの大きな核としていく取組を進めている。

5　今後の課題

芝生は生き物であり，共生を考えるヒントをいくつも提示してくれるものではあるが，それだけに環境条件に繊細に反応を示す。今夏の猛暑においても敏感に反応し，その対応も時機を失することができない。今後，芝をしっかり定着させるためのこれらのノウハウを蓄積し，児童の体力づくり等への活用に向けて，具体的で有効なデータを積み上げていくことが必要である。



特色ある教育活動

豊かな自然にかこまれた作並・新川とともに歩む作並小

作並小学校　髙橋　良一

【はじめに】

当校は，国道48号線沿いの仙台市の最西端，山形県との県境に位置します。学区内は，広瀬川や新川川の源流部であり，春の草木の芽吹きや秋の紅葉をはじめ四季を通して風光明媚で豊かな自然に囲まれています。作並小本校そして新川分校ともに，保護者及び地域住民の多くは当校の卒業生で，学校への愛着が深く，学校運営に対しても理解があり協力的な地域です。

今年度作並小は，本校及び分校を合わせても在籍児童が54名という小規模校です。そこで，少人数学級のよさを生かし，児童一人一人に寄り添いながら「明るく楽しい，信頼される学校づくり」を学校経営方針に設定しています。

そのうえで，教育活動の展開に当たっては，保護者及び地域の協力のもと，郷土の人材の活用や郷土素材の教材化など常に地域とともに歩む作並小を意識しながら取り組んでいます。

今回は，「作並元気プロジェクト」「新川よいとこホタルの里アピールプロジェクト」いうテーマのもと展開している総合的な学習の時間や生活科の活動を中心に，特色ある活動を紹介します。

【本・分交流：川遊びを楽しもう】

その名水に惚れて醸造工場が立地された新川川で，本校と分校の児童が一緒になって川遊びを楽しんでいます。この川遊びは当校の学校運営に欠かせない本・分交流の一つであるとともに，その後の水生昆虫をはじめとする水生生物調査や自分たちの住む地域の環境調査の契機となり，児童のより深く広い学びへと発展していきます。

【地域との交流：新川ホタルまつりに参加しよう】

毎年，ホタルが飛び交う時期の７月初めに，地区の方々が中心となって運営され，新川分校を会場に開催されています。当日は，参加する児童にとっても楽しめる内容であるとともに，ホタルが飛び交う自分たちの地域の環境のよさを改めて実感できる機会となっています。

【地域との交流:温泉地区のイベントに参加しよう】

当校の６年生の総合的な学習の時間の活動には，自分たちの活動の発信が設定されています。

これまでは，当校のホームページに掲載したり作並駅に児童の考案した名物に関するポスター等を掲示したりする程度にとどまっていました。今回の参加依頼を発信の好機と考え参加させていただくことにしました。当日は，恥ずかしさなどにより戸惑う姿が見受けられたものの徐々に慣れ，発信することの意義や活動に対する充実感を味わう表情が確認できるようになりました。

今回の活動が，自分たちのふるさとのよさを改めて見つめ直す等児童の学びを広げたり深めたりする貴重な機会になったととらえています。

【大倉小等との交流：交流の輪を広げよう】

昨年度より，大倉小と当校の両６年生が年間で６回の交流活動を展開しています。

今年度の第２回目の活動は，７月２日に大倉小学区で行われ，大倉ダムのカヌー体験やダム湖での水遊びを中心に実施することができました。

６回の交流活動には，児童の卒業後の進学先となる広陵中を会場に展開される中学生との交流も含まれています。ささやかな交流ではあるものの，大倉小の同級生との親交の機会となっていますし，新しい環境となる４月から始まる広陵中での生活に向けた安心感に結び付く等いわゆる中一ギャップの解消に効果的であることを，昨年度卒業した現在の中学一年生の姿から実感できています。

【おわりに】

当校は，地域住民の熱い思いで分離独立のうえ開校した昭和23年以来「地域とともに」という考え方を根底に様々な教育活動を展開してきました。そして，この考え方をこれからも大切にしながら，明日もまた学校へ行きたいと思えるような「児童の夢と希望を育む学校」を目指すとともに，作並小が作並・新川地区の方々のオアシスでありたいと願い，日々努力していきたいと考えます。

特色ある教育活動

「音楽の南材」の継承と発展を目指して

南材木町小学校　関東　正春

○　はじめに

本校は仙台市中心部の南に位置し，明治６年開校，今年で創立137周年を迎える伝統校です。本校における音楽の歴史は古く，昭和９年から３年連続児童歌唱コンクールで全国優勝を果たし，優勝旗が永久保存として贈呈保管されています。以来，ＮＨＫ合唱コンクールで全国優勝が８回，準優勝３回，第３位が４回という輝かしい成績を上げ，「音楽の南材」として全国に知れ渡っています。

昭和27年に文部省から小学校音楽教育実験校の指定を受け，頭声発声の指導法の研究に取り組み大きな成果を上げました。頭声発声法の歌唱指導は南材小から全国に広がりました。平成18年には財団法人音楽教育振興団「第15回音楽教育振興賞」顕彰部門を受賞しました。最近では，合唱団と吹奏楽団が３年連続で揃って東北大会に出場するなど，音楽の伝統を継承しています。

なぜ長年にわたって伝統が継承されているのか。それは，音楽教育を学校教育の柱に据えた教育活動が展開されていることに，その秘訣があります。そのことについて紹介します。

○　受け継がれる音楽活動

本校には，響きのある歌声を受け継ぎ，子供たちに豊かな音楽体験をさせていくための独自のシステムがあります。その中心となるのが，子供が子供に伝えていくという三つの活動です。

・うたごえタイム

毎週木曜日，始業前の時間を利用して学級や学年等で合唱に取り組んでいます。下学年の学級には，合唱団を中心とした５・６年生の音楽委員が出向いて，発声のお手本を聞かせたり歌い方のポイントについてアドバイスをしたりします。下学年の児童は，音楽委員の歌声にあこがれをもって「響きのある声」を目指すようになります。

・音楽集会

月に一度，全校児童が集まって歌唱や合奏，鑑賞の集会を行います。児童会の音楽委員会や教師が音楽に関する企画をして，全校児童と教師が一緒になって音楽を楽しみます。平成21年度の音楽集会の一部を紹介します。

７月　「吹奏楽の響きを味わおう」

吹奏楽団で使用している様々な楽器について，クイズや紹介を行った後，演奏を披露。児童は，楽器ごとの音色の違いにとても興味をもちました。

８月　「合唱の響きを味わおう」

合唱団の児童が同じ曲を斉唱，二部合唱，三部合唱で歌い，その響きの違いを味わいました。

10月　「全校合唱奏を楽しもう」

１年生の手作り打楽器，2，3，6年生の鍵盤ハーモニカ，4，5年生のリコーダーに合唱団と吹奏楽団が加わって合唱奏を行いました。児童も教師も色とりどりの服装で演奏を楽しみました。

12月　「大合唱をしよう」

全校で合唱「第九」（喜びの歌の部分のみ）に取り組みました。ベートーベン豆知識を学び，ＤＶＤでオーケストラと合唱による鑑賞をした後，教師や保護者等を交えて「第九」を合唱しました。伴奏は吹奏楽団が行い，教師や保護者はドイツ語で歌いました。保護者からは，「是非，地域の行事にして欲しい。」という声が上がるほど大好評でした。

・音楽発表会

年に一度，コンサートホールで音楽発表会を行います。今年で37回目を迎えました。各学年の演奏に加えて，合唱団と吹奏楽団の演奏も行われます。ホールは満席になり，保護者だけでなく地域の方々も毎年楽しみにしている行事となっています。

○　音楽が子供たちにもたらすもの

子供たちは「音楽する」ことを楽しみ，日常的に音楽が流れているのが本校の光景です。音楽は生活の中に根付いていると言えます。本校が長年，音楽教育の継承・発展に取り組んできたことの大きな理由は，情操面，意欲面，人間関係づくりの面，音楽を通して得られる自信や誇り，集団への所属感等，人間形成の面での効果が大きいことが挙げられます。音楽を通して子供をはぐくみ，学校づくりをしてきたと言っても過言ではありません。そのことを児童も教師も，そして地域も誇りに思っています。

今年の11月１日には公開研究会を行いますので，「音楽の南材」をご覧いただければと思います。